

全国英語教育学会 平成25年度第1回理事会議事録

■日 時 平成25年3月30日(土)14:00～17:30

■場 所 筑波大学東京キャンパス文京校舎 3F 337 会議室

■出席者

卯城祐司(会長), 吉田信介(会長代行副会長), 萬谷隆一(副会長・北海道), 早瀬光秋(副会長・中部), 鈴木智己(理事兼幹事・北海道), 佐久間康之(理事・東北), 野呂徳治(理事・東北), 松沢伸二(理事・関甲信), 浅見道明(理事・関甲信), 紺渡弘幸(理事・中部), 村田純一(理事・関西), 横川博一(理事兼幹事・関西), 高橋俊章(理事・中国), 那須恒夫(理事・四国), 山内進(理事・九州), 大坪喜子(理事・九州)

<以下, オブザーバー>

金子淳(幹事・東北), 羽山恵(幹事・関甲信), 横田秀樹(幹事・中部), 猫田和明(幹事・中国), 山森直人(幹事・四国), 山川満夫(幹事・九州), 小野真嗣(北海道研究大会事務局長), 大和隆介(紀要編集委員長・中部), 廣森友人(事務局長), 田中洋也(事務局), 本田勝久(事務局), 深澤真(事務局), 前田啓朗(事務局)

会長就任にあたり, 卯城会長より, 本学会の三点の課題「実践・研究・組織」と四つの方針「構造改革, 他学会との差別化, 会員サービスの充実, 学会の質の向上」に基づいた学会運営の進め方についての表明が行われた(別紙資料「全国英語教育学会の運営にあたって」)。続いて下記, 審議が行われた。

■議 題

1) 平成25年度新役員(案)

- ・資料2「平成25年度学会役員名簿(案)」に基づき, 新役員についての説明, 提案が行われ, 承認された。
- ・会長より, 全国英語教育学会会長職と関東甲信越英語教育学会会長職について, 「前例としない」形での1年間の兼任について説明があり, 了承された。
- ・会長より, 今後, 全国会長職と地区学会会長職が兼任にならないよう, 「会長が(全国英語教育学会の会長に就任するなど)その職を遂行できない場合は, 会長代行副会長が残りの任期, 会長職を務める」など, 今年度中に, 地区学会の会則見直しを検討するように要望があった。

- ・吉田一衛先生の名誉会長就任，瀬川俊一先生の顧問就任について提案が行われ，承認された。また会長より，特別顧問・顧問について説明がなされた。
- ・資料3に基づき，事務局長より，各地区学会情報と地区，全国会員数の報告が行われた。

2) 第39回北海道研究大会について(案)

- ・大会実行委員会事務局長（小野真嗣先生）より，資料4「第39回北海道研究大会実施要項」に基づいて参加要領，発表要領（発表資格含む）の説明，確認が行われた。
- ・理事より，発表目標数，発表会場の数からの受け入れ可能件数上限について質問があった。これに対して，大会実行委員会事務局長より，250件までは確保できる見込みが報告され，発表件数が見込みよりも大幅に少なくなった場合は，発表申し込み期限を延長する可能性があることについての説明があった。
- ・会長より，「全国英語教育学会の運営にあたって」の方針4「研究発表の質を高めるために，口頭発表における査読を検討すること。ただし，実践発表には緩やかに対応すること。不採択となった発表についてもポスター発表として全て受け入れたい。」との考えが示された。
- ・授業研究フォーラム（関東甲信越地区）について発表者所属の訂正報告があり，確認された。
- ・理事より，北海道特別企画の実施形態についての質問があった。これに対して，大会実行委員会事務局長より，1つの特別企画枠（90分）で3本の発表を行う旨の説明があった。
- ・大会要項，ポスターにおける発表タイトルの書式について統一するよう要望が出され，大会実行委員会事務局で修正を行うことが確認された。
- ・大会実行委員会事務局長より，託児室の設置について方針の説明が行われ，受益者費用負担により実施する方向が確認された。託児室設置の周知の方法について質問があり，大会実行委員会事務局長から，実施要領に含める等の方法について検討することが確認された。
- ・会長より，今後の大会においても，託児室設置を継続していただきたいという要望が述べられた。
- ・大会実行委員会の負担も鑑み，例年，理事会後に開催されていた理事会懇親会は取りやめにすべきではないかという意見があり，承認された。

3) 平成24年度決算(案)

- ・事務局長から資料5に基づき，平成24年度決算案の提示，説明があり，承認された。
- ・会長より，課題で述べられた財政の健全化に関連して，役員の旅費支給については今後も検討すべき課題であることの指摘があり，その方向性が確認された。

4) 平成25年度予算(案)

- ・事務局長から資料6に基づき，平成25年度予算案の提示，説明があり，承認された。

- ・理事より、全国学会の財政の健全化に向けた取り組みについて、地区学会からの全国会費納入金額を増やす代わりに全国分の会費を値上げするべきであるという意見が出された。会長からは、他学会並みに全国英語教育学会としての一括した会費納入方法についての方向を検討したいという説明があった。これに対して質問のあった理事からは、地区によって地区学会のみに所属している会員数に違いがあり、会員の理解が得られないのではないかという意見が出された。会長からは、学会活動の活性化も含めて、今後の課題として提案したいとの説明があった。
- ・理事より、ARELEの予算が2カ年分、予算案に組み込まれていることについて質問があり、事務局長からは過去の経緯により、扱いを同じにしているとの説明があった。理事からは、編集時期のずれが発生していない状況であれば、1カ年分の予算案にするべきであると提案された。紀要編集委員長からは、過去の突発的な事例による発行時期のずれや、査読委員の多さから査読締切に合わせて編集作業を行う難しさについても説明がされた。過去に編集委員会を経験した理事からは、編集委員会の取り組みにより発行時期の問題は解決できるとの説明があった。会長より、事務局長が過去の事務局とも状況の確認を行い、再提示することの提案があり、了承された。
- ・全国の理事会（毎年度第1回のみ）出席にあたり、全国からも地区からも旅費が負担されていない事務局員についても全国から負担すること、そして紀要編集委員長の旅費については紀要編集事務局費から負担することが了承された。

5) 第40回四国研究大会について(経過報告)

- ・資料7に基づき、四国地区の山森幹事より第40回徳島研究大会についての説明が行われた。

6) 全国英語教育学会40周年記念誌について(経過報告)

- ・資料8に基づき、会長より、編集方針、配布時期、配布方法についての説明があり、その方針が承認された。

7) 全国英語教育学会紀要ARELE 24号について(経過報告)

- ・資料9に基づき、学会紀要ARELE第24号編集経過の報告が行われた。
- ・別紙資料1により、新しい査読基準の説明が行われた。
- ・CiNiiの利用状況についての報告が行われ、論文ダウンロード数（フルテキスト年間15,000件程度）などの報告が行われた。

8) 全国英語教育学会・学会賞について(案)

- ・大和紀要編集委員長より、別紙資料に基づき、学会賞候補（学術・教育）について選考過程の説明、提案があった。学術奨励賞候補については、同点が二点あった。そのうち、一点

については過去5年以内に受賞歴があったため、残りの一点についてのみを候補とする説明があった。

9) 委員会制度について(案)

・資料10に基づいて、会長より新委員会制度についての提案が行われ、現在ある紀要編集委員会および40周年記念誌委員会に加え、1) 全国大会委員会、 2) 研究企画委員会、 3) 財務委員会、 4) 会則検討委員会、 5) 広報/通信委員会、 6) 社会ニーズ対応推進委員会、 7) 学生/院生委員会の新設が承認された。

10) 研修会の開催について(案)

・会長より、別紙資料の4「研修会の開催について (案)」に基づいて、①研修会そのものの企画、②他学会との合同研修会の企画について、その検討を進める提案がなされた。今後、経費を含めて実現可能性を検討することが了承された。

11) 学会財政の健全化について(案)

・会長より、昨今の全国学会の財政状況についての説明があり、その改善のために、下記の4点について提案があった。

①毎年地区学会に支出される3万円（計24万円）について、全国予算の健全化のために、全国予算に戻せないか。以前に各地区から納入されていた6万円と合わせると計72万円の収入減となっている。

②全国大会の繰越金額は、過去開催地区学会の予算に組み込まれている。徳島大会から、決算が赤字となった場合は全国が負担する一方、黒字となった場合は全国50%、地区学会50%で折半できないか。

③賛助会員の会費は、80%が地区学会に入っている。50%ずつ配分するなど変更を検討できないか。

④現在の合計金額より安くなるようにお互い努力する形で、地区と全国の学会費を統一し、全国に納入、地区に配分できないか。

【質疑】

・全国統一体の良さを維持するという考え方があるのではないか、「統一体から真の学会を目指す」という意味はどういうことか。
→設立以来、学会をひとつにまとめるということはこれまでの顧問の先生がたの悲願でもあった。指摘の通り、地区学会に支えられていることにより足腰の強い学会というメリットも

ある。地区学会の存在感は残しつつ、全国の財政基盤を強くすることで全国学会の活性化が図れるのではないかと。

- ・地域の小中高の先生にとっても参加しやすい学会費を維持することにも利点があるのではないかと。地元に着目して行う利点はあるので、全国に統一することで不利になる面もある。→授業改善に役立てたいという教員の参加を促すことが重要であり、学会としても研修会の実現等に対応をしていきたい。
- ・今の提案で利点がどのようになるのかを整理して再度、提案してほしい。
- ・地区学会誌と全国誌の取り扱いについても明確にする必要がある。
- ・地区学会に支払われる金額がなくなるということは、地区学会で全国学会のために行う仕事もゼロにするということか。地区の事務局として行っている仕事量は決して少ないものではない。
- ・全国大会の運営には、かなりの労力がかかり、繰越額を半々で折半するには大会事務局から了承を得られないのではないかと。
- ・各地区学会の事情にもより、全国大会の経費の支出方法、目的が違うのではないかと。
- ・地区により、収支の状況も異なるのではないかと。それによって、地区と全国学会の配分も異なる。会場費がかかるかどうかでも大きく状況が異なる。展示業者の数によっても異なってくる。
- ・繰越額が多くなった場合は、地区で使い切れない場合もあり、その場合は全国学会に還元するべきではないかと。

質疑の結果、各地区で検討した意見を持ち寄り、6月下旬までに意見をまとめ、8月の理事会で再検討する方向性が示され、了承された。

12) 会長選挙細則改正について(案)

- ・資料11に基づいて、事務局本田先生より、昨年度理事会での意見、質問を反映させた細則改正の提案があった。今後は地区学会での議論を経て、6月下旬までに意見をまとめ、8月の理事会で承認、総会で正式決定したいとの方向性が示された。提案、今後の予定について了承された。

13) その他

- ・3月の理事会の時期についての検討、海外学会の時期と重ならないように変更したい。そのため、3月初旬での開催是非について地区学会で検討、8月の理事会で再検討することが提案、了承された。

- ・全国の理事会出席にあたり、北海道英語教育学会の中で、全国からも地区からもその旅費が支給されていない出席者がいる問題について、地区学会で検討、8月の理事会で審議することが提案、了承された。

■配布資料:

資料1 出席者名簿

資料2 平成25年度役員一覧(案)

資料3 各地区学会情報

資料4 第39回北海道研究大会要項(案)

資料5 平成24年度決算(案)

資料6 平成25年度予算(案)

資料7 第40回四国研究大会進捗状況

資料8 全国英語教育学会40周年記念誌

資料9 全国英語教育学会紀要 *ARELE24* 号編集経過・学会賞

資料10 委員会制度(案)

資料11 会長選挙細則改正(案)

参考資料 本学会会則および諸規定

別紙資料 全国英語教育学会の運営にあたって